

【伊万里市教育委員会】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

伊万里市では、校務支援システムを導入したことで業務効率化、校務環境の統一化ができ、個別最適な学習に繋げることができるようになった。

また、1 人 1 台端末を活用したデジタルドリルを導入したことで紙中心のドリル学習をデジタル化し、学習結果を見える化することで、1 人 1 人の理解度や進捗にあわせ個別最適化された学習指導・サポートができるようになり、地域活性化の基盤となる子どもたちへの質の高い教育の提供につなげる環境を整えた。

教育 DX は、第 6 次伊万里市総合計画における基本目標を実現するための重点施策として位置付けており、上記 ICT 環境の利活用を推進することで、教育 DX を実現できると考える。

2 GIGA 第 1 期の総括

令和 2 年度に 1 人 1 台端末を導入し、令和 3 年度から活用を開始した。活用開始からこれまでの主な対応としては、令和 3 年 6 月から ICT 支援員を配置し、令和 3 年 12 月から学校のインターネット回線の増強に着手し、以後、年度ごとに計画的に増強を進めている状況にある。

1 人 1 台端末の持ち帰りについては、令和 4 年 11 月頃から運用を開始し、運用開始時はオフラインでの活用のみだったが、令和 5 年 12 月までに、オンライン接続が可能となるよう対応を行った。

(1) 課題

- ・授業における 1 人 1 台端末の利活用に関する頻度や理解度について、学校間や教職員間に差がある
- ・家庭学習における 1 人 1 台端末の利活用が十分に進んでいない

3 1 人 1 台端末の利活用方策

上記課題を解決するためには、これまで整備した ICT 環境の理解や情報共有が必要であり、ICT 環境を活用した指導方法の改善等について好事例を教職員間で情報共有したり、IT リテラシー向上の研修等を開催したりし、日常的な 1 人 1 台端末の利活用に活かすことが重要である。

また、家庭学習や、やむを得ず登校できない児童生徒、不登校児童生徒に対する学びの保障としてもクラウドサービスやデジタルドリル等は有用であり、引き続き支援できる体制を整える。